

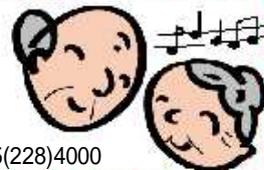
月刊



# はあむふるあたご

第36号(2008年8月)

【発行】平成20年8月1日



【発行元】株式会社はあとふるあたご

【発行者】木村 淳

〒951-8051 新潟市中央区新島町通三ノ町 2284 番地

電話 025(228)5000(代) FAX025(228)4000



デイサービスセンター横越

「ハーブ園お披露目会」(関連記事は2ページ)

## 目次

横越ハーブ園お披露目会・・・・・・・・・・ 2	伊東先生のコラム 第35回・・・・ 11
ハーブ園を造ります！ 第8回・・・・ 2	施設見学を終えて
自分で食べるを応援します！第2回・ 5	(新潟県信連 福井様)・・・・・・・・ 12
研修委員会・・・・・・・・・・・・・・・・ 8	居宅介護支援センター水原開設・ 12

# ハーブ園お披露目会



**7月6日(日)にハーブ園のお披露目会をしました。**

昨年の冬に庭の改装工事を行い、この春に苗を植え、花花工房の小野先生の指導のもと、デイサービスご利用のお客様と一緒に育ててきた20種類以上のハーブやお花がすくすく育ち、あおあおとした葉になり、おいしそうなお実をつけきれいな花を咲かせています。

当日はお昼どきの短い時間ではありましたが、40名近くの方々が足を運んでくださいました。ハーブ園で収穫したものを使って、ハーブティーとケーキを楽しんでいただきました。

お越しいただいた皆様からは「おいしい」「ステキ」などお褒めの言葉を頂いて、スタッフの顔も喜びがいっぱいになりました。またスライドで、デイサービスの様子をお伝えすることができました。

ハーブ園ではハーブをご覧になったり、ハーブを手に取り香りを楽しまれたり、ワイルドストロベリーを収穫したり、楽しんでいただきました。帰りにはサプライズで、ラベンダースティックやハーブ石鹸のプレゼントもご用意させていただきました。

短い時間ではありましたが、ご来場くださいました方々に、癒しのひとときを過ごしていただいたように感じ、職員一同大変うれしく思い、ご協力いただいた全ての方々に感謝いたします。

デイサービスセンター横越

山田 智美

## ~ハーブ園を造ります! 第8回~

### やさいとハーブ



当社デイサービスセンター横越の敷地内にハーブ園がオープンしました。日頃よりご指導頂いております、かたひがし花花工房の小野先生にハーブの魅力についてお話を頂きます。

横越の施設では、これまでもやさいを育てておられたそうです。ハーブ園を造るにあたって、やさいを作るスペースを確保してほしいとお話でした。私はその話を聞いて、それはとてもうれしくなりました。お客様の中には、これまで畑仕事をしてこられたベテランが何人かおられるそうで、そうした方々の経験や技が活かされ、お知恵を拝借できるかもしれません。さらには、自家製のやさいにハーブの香りづけをして食卓にのせることができます。

最もよいのは、やさいの近くにハーブを植えておくと、害虫の被害が減るとか、やさいの風味が増すなど成長による影響を与え合うことができることです。こうした植物の組み合わせを「コンパニオンプランツ」と言います。コンパニオンプランツによって薬品に頼らないやさいづくりができる可能性を考えてのことでした。今はやさいは「なす・きゅうり・とまと・ピーマン・つるなしいんげん」などを植えるとのことでしたので、ハーブは「とまと」「なす」と相性のよい「バジル」「きゅうり」には「チャイブ」といった具合に植えました。新鮮で安心なやさいが育つことを楽しみにしています。

かたひがし 花花工房

小野 庸子

## デイサービスセンター城北町

デイサービスセンター城北町では、6月半ばより、五十公野公園あやめまつりへ、お客様をお誘いいたしました。五十公野公園のあやめは、日本四大あやめ園とされ、約300種類60万本のあやめが咲き誇る、とても見ごたえがある新発田市のイベントです。デイサービスセンター城北町では、この季節、恒例の外出レクリエーションの催しとなっております。



6月は空梅雨のためか、天候にも恵まれ、色とりどりの美しい花々を間近で観賞することができました。青々とした山々の中、すがすがしい空気が流れ、紫色、青色、白色・・・のあやめが迎えてくれました。



「去年も来たね。また来ることができたねえ」「花はいいねえ」とお客様。また来年も、みなさまで「新発田の花・あやめ」を見にいきましょう。

デイサービスセンター城北町

竹内 啓泰

電話 0254-21-3330 FAX 0254-21-3335

## グループホーム新津



新潟では遅い梅雨入りが報じられましたが雨も少なく作物の成長が気になるところです。「ひさかたの 雨も降らん あしびきの 山田のなへの かくるまでに」と良寛さんが農民に代わって想いを寄せて詠んだ句が6月29日の新潟日報に掲載されていました。ちょうど今の状況に重なって雨の少ない毎日が気になる今日この頃です。昔の田舎ではどこの家でも座敷の柱に細引きを掛け、そこにたくさん

の、ちまきや笹団子を吊るして都会に住む身内に送ったものです。

そんな昔を思い起こしてもらおうと、ちまきづくりを計画しました。笹の葉の匂いをかぎながら、笹を持つ手は自然に三角に形づくり、もち米を入れ、手に触れる事で手順が記憶として蘇ってきていました。形はさまざまに怪しげなものもありましたが手つきは上々。お昼には自分で作ったちまきにたっぷりの黄粉をつけて召し上がり満面の笑みでした。



グループホーム新津

渡邊 やよひ

電話 0250-21-2888 FAX 0250-21-2889

## デイサービスセンター坂井東

大好評！！「理髪の日」



坂井東では、毎月第2火曜日は理髪の日といたしまして理容師の方による髪のカットを行なっております。とても好評で先月からは第3日曜日も追加し、月に2回のカットを行なっております。

理・美容室へなかなか出かけられない方や、カットをご利用頂いたお客様のご家族様から大変ありがたいと感謝の言葉を頂いております。

髪をカットされたお客様は、「短くなって、さっぱりした」「また、来月も頼むわね」など皆様、大変満足されていらっしゃいます。顔そりだけでも受け付けております。理容師の方に顔を剃って頂くと、とても気持ち良く、お顔はツルツル・スベスベです。

髪のカット・顔剃りは、予約制ですので、恐れ入りますが前もってお声がけ下さい。

デイサービスセンター坂井東

桑野 美智子

電話 025 - 268 - 8880 FAX 025 - 268 - 8887

## デイサービスセンター松浜



先日、デイサービスセンター松浜では、恒例になりました松浜中学校2年生の「職場体験活動」の受入をさせて頂きました。

今回も生徒さん達には、送迎車の添乗や食事の配・下膳、入浴後のお客様の整髪、施設内の清掃など、色々な仕事を体験して頂きました。

皆さん、最初は随分と緊張されていましたが、慣れてくるにつれて笑顔も出るようになり、最終日にはお世話になったお礼にと、お客様全員に自分達で描いた「絵」をプレゼントして下さいました。また、お客様からは「絵」のお返しに、生徒さん達に温かいねぎらいのお言葉を掛けて頂きました。

「職場体験活動を通して、将来介護の仕事がしてみたいです。」生徒さんのお一人がそんな話をして下さり、職員一同とても嬉しく思いました。今回の体験が、生徒の皆さん達の今後の人生に少しでも役立てばと切に願います。



デイサービスセンター松浜

石崎 徳幸

電話 025 - 255 - 7701 FAX 025 - 255 - 7705

# 自分で食べるを応援します！第2回

## 「コラボのスプーン」

株式会社コラボ 代表取締役社長  
秋元 幸平



ものづくりのメーカー、特に中小企業は、自分の開発製品に対して思い込みが強すぎる傾向があります。燕のメーカーも同様で、どうしてこんな素晴らしい製品を作ったのに売れないのだろう。これはきっと、世の中が悪いのだろうと販売不振の責任を転嫁します。

コラボはそうならない為に、新潟大学福祉人間工学科・日本歯科大リハビリセンター・聖隷クリストファー大学リハビリ科の教授のご指導と、県内外の病院・施設のご協力で食事道具の開発を進めています。流行の言葉の「エビデンス」(科学的・医学的根拠)のある製品開発をモットーにしています。さらに、三菱重工と共同開発の「形状記憶ポリマースプーン」をはじめとする大企業や全国各地の地場産業の企業と共同開発を積極的にしています。

そんな訳で社名の「コラボ」は、コラボレート(協力)・ラボラトリー(実験室)・コンフォート(心地よい)を合わせた造語です。

## 福祉用具課

今回ご紹介する商品は「**自助具**」です。

自助具とは、身体が不自由な人が日常の生活動作をより便利に、より容易にできるように工夫された道具です。英語では「Self-help devices」(自らを助ける機器)といい、日本語でも英語でも文字どおりの意味です。自助具は福祉機器の中で最も身近な道具であり、生活を広げるものであるといえると思います。

今回は数多くある自助具の中から「**はし**」をご紹介します。

### 楽々箸 (株式会社コラボ) **ピンセット風の木製箸です**



普通の箸にピンセット様の金具がついて、握るとものがつまめる様になっています。

木製であり違和感がない上、握ると自然に箸の先が合うので使いやすいです。業務用の積層強化木を使用した耐久性のあるお箸です。

急な怪我や握力の低下した方にも向いています。

自助具に関するご質問やご相談もお気軽にお問い合わせ下さい。 福祉用具課 小笠原 祐司

福祉用具レンタル・販売/住宅改修のお問い合わせは…

福祉用具センター柳都大橋 025-228-5002

福祉用具センター新発田 0254-23-1173

## デイサービスセンターさかえ



デイサービスセンターさかえでは7月7日の七夕にむけて、お客様に折り紙で飾りや願い事を短冊に書いていただきました。“丈夫にいつまでも暮らせますように”“みんなと仲良く過ごせるように”と皆様それぞれ願いを込めて熱心に短冊に書かれていました。



当日のお昼は、厨房職員が丹精込めて作った『七夕スペシャル弁当』をお出ししました。かんぴょうと梅の巻き寿司や星型のコロケ、そうめん汁など、いつも以上に豪華なメニューで、お弁当の蓋を開けると同時に『うわ～すごい!!』と歓喜の声があがりました。どなたも美味しいとおっしゃり、いつもは残されるお客様も全て召し上がっていただきました。3時のティータイムには、餡で作った金魚が泳いでいるかのように見える手作りゼリーにまたまたビックリされて、

食べるのがもったいないとおっしゃるお客様も・・・。

皆様でお祝いした楽しい1日になりました。今後もお客様にビックリ！喜んで頂けるようなスペシャルメニューをお出ししたいと思います。

デイサービスセンターさかえ

富樫 亜希子

電話 0256-45-7735 FAX 0256-45-7739

## グループホーム三条

### 運動会

今日は、毎年恒例になっているミニ運動会がありました。

夏の暑さを感じさせない、空調が効いているはずの空間が、皆様の熱気でムンムンしていました。お客様代表の滝沢様の挨拶に始まり、まずは元気にラジオ体操。毎日やっているだけあって、皆様さすがに慣れたものでした。



借り物競争はぬいぐるみや、サングラスなど、可愛かったり、ちょっとおかしかったりするものもあり、パン喰い競争になると、皆様かなり白熱して競技されていました。もちろん事故や、怪我などなく無事終わり、皆様いろいろな戦利品や、賞品などにも喜んでくださいました。



グループホーム三条

難波 淳

電話 0256-36-5555 FAX 0256-36-5556

## デイサービスセンター横越

6月28日、ご希望されたお客様と1日かけて外出してきました。まずは、新発田の『清水園』という庭園に行き、緑きれいな木々の中を散策したり、緑豊かな中にある広い池を見て...きれいな風景にほっとなごむひと時でした。その後、庭園前のおみやげ屋の方が温かいお茶と新発田名物『水饅頭』を出してくださり、そこでまたほっとした時間を過ごしました。

昼食後、新崎へ移動し、栗山米菓にて『せんべい焼き体験』をしてきました。こんがり焼け、香ばしいいい匂い。その場で食べてきましたが、とてもおいしかったです。い



ろんな種類のおせんべいも売られていて、おみやげ選びに迷いながらも楽しく買い物をしました。「いや～、良かった、良かった。」と、お客様。楽しい1日でしたね！

デイサービスセンター横越

大久保 友恵

電話 025 - 383 - 2235 FAX 025 - 383 - 2236

## 訪問介護ステーション

**新潟市ではゴミ収集新制度が始まり2ヶ月あまり経ちましたが、**

**皆さんはもう慣れましたか？**

『10種13分別』と一口に言っても、なかなか分別を完全に行うことは難しいようです。お客様の要望により、訪問介護ではゴミの分別の依頼や訪問日時の変更が増えています。しかし、全てのお客様の要望にお応えすることが出来ないのが現状です。

- ・ ゴミ捨ての時間が早朝である。
- ・ 訪問日・時間がごみ収集の日時に合わない。
- ・ ご自分では完全な分別ができず、出せない。

上記のような種々の問題がありますが、お客様のご協力を頂きながら、ゴミ分別新制度に対応するようヘルパーも努力しております。

季節柄、食材の腐敗、害虫などの心配も増えてきますので、ご家族様、ご近所様のご協力を仰ぎつつ、快適に過ごしていただけるようにと思っています。

訪問介護ステーション

荒木 幸子

電話 025 - 228 - 5004 FAX 025 - 228 - 4000



## 研修委員会

私たち研修委員会は、はあとふるあたご全職員の介護技術や知識の向上を図る為に活動しています。

今回は介護福祉士会より 3 名の講師を派遣していただき介



護技術の実技研修会を行いました。始めは緊張している様子でしたが、研修が進むにつれて職員同士で声を出し合い和気あいあい。職員にもいい刺激になった様です。この研修は内容を変えて秋にも第二回を行う予定です。研修後は参加した職員がそれぞれの事業所のスタッフへ介護技術を伝達していく予定です。



確かな介護技術に“笑顔”を添えて、お客様への最高のサービスに一步でも近づける様に、はあとふるあたご全体で取り組んでいきます！

これからの研修委員会の活動にご期待ください。

研修委員長 中山 卓

## 居宅介護支援課

### It's My Life

「もし、皆様の人生が一つのドラマだとしたら・・・」

どんなドラマにしたいですか？どんな主役を演じたいですか？

そんな風に、これからのことを考えてみたら楽しいと思いませんか？

ドラマには台本が必要です。台本を書くのは脚本家です。

脚本家がケアマネジャーだとしたら・・・台本がケアプランだとしたら・・・

私が主役だとしたら、少しでも納得のいく内容のドラマにしたいです。

だから脚本家（ケアマネジャー）にできる限りの希望を伝えていきたい。

時には、そんな風に考えてみても、楽しいと思いませんか？

主役は、皆様一人一人です。

私はこれからも、脚本家になったつもりで担当する皆様の人生ドラマのストーリー（ケアプラン）を一緒に考え、満足のいく内容で作っていかれたらと思っています。



居宅介護支援センター 河渡本町

南 洋子

電話 025-250-3002 FAX 025-250-3011

## デイサービスセンター水原・ショートステイ水原

6月8日～15日まで水原の瓢湖では、「こいのぼり大作戦」というイベントが行なわれました。

阿賀野市の小・中学校、保育園、介護施設などの手作りこいのぼりが瓢湖の空を泳ぎます。もちろんデイサービスセンター・ショートステイ水原も参加しました。片面は目の大きい鯉を描き、もう片面は「はあとふるあたご」のロゴマークにしました。



お客様と協力して色を塗ったこいのぼりは、さわやかな風を受けて泳いでいました。

丁度あやめが咲く季節だったので、瓢湖へ散歩に行き、花とこいのぼりを眺めて楽しみました。

デイサービスセンター水原・ショートステイ水原 高橋 裕子

電話0250-62-8888(ショート)0250-62-8886(デイ)

FAX0250-62-8887(デイ・ショート共通)

## デイサービスセンター柳都大橋



毎週金曜日、健康支援トレーナーの皆川により歌を交えながらボールやセラバンド・手話などを用いたストレッチを行っています。

歌を唄うだけでなく皆川トレーナーが歌に合った動きを考えて皆さんと楽しみながら一生懸命行っています。

その中でも”花”と言う「夏川りみ」さんが唄っていた歌では手話も取り入れています。川は指3本で表わし、いついつまでもと言う歌詞では、指を2つの輪にし遠くの方へ……。まるで「離れないよ～」と言っているかのよう。又、表題である”花”は両手をつぼみのようにし、フワァ～と花が開くかのように表現しています。一つでも覚えて帰って頂いてご家族や友人にも教えてみて頂きたいと思います。

デイサービスセンター柳都大橋

松浦 浩子

電話 025-228-5010 FAX 025-228-3335

## グループホーム五泉

6月に入り新緑のきれいな季節、お天気にも恵まれ五泉では花の苗をプランターに植える作業をお客様と職員とで行いました。

マリーゴールド、ダリア、ペチュニアなど様々な苗を植えていただき、「ほんに花はいいね」「毎日の水やりはオレがするわね」などお客様の生き活きとされた表情がとても印象的でした。



赤、黄、ピンクと色とりどりの6つのプランターがお客様の愛情を受けて、とてもきれいに咲き乱れています。

毎朝水やりをして下さるお客様へこの場を借りて「ありがとうございます」とお礼申し上げます。

五泉にお立ち寄りの際はぜひご覧下さい。

グループホーム五泉

清野 良子

電話 0250-41-1610 FAX 0250-41-1611

## デイサービスセンター河渡本町

デイサービスセンター河渡本町では、6月25日、26日に運動会を開催しました。

お客様は、紅白に分れて、はちまきをしめていただきました。

はじめに、それぞれのチームの代表者から、選手宣誓をしていただきました。

まずは、玉入れ。敵方の職員がかついだ籠をめがけて玉を投げ込みます。ここでは2回続けて紅組の勝ち！

次に、玉送り。こちらは少しの差で白組の勝ち！ここまでは、紅白引き分けです。

ここで、パン食い競争。得点は入らず、皆様に参加していただきました。

最後に、紅白に分かれた職員が、勝負をかけてパン食い競争をしました。車いすに乗った職員がパンめがけて突き進みました！

その結果、今年の運動会は紅組優勝！！

さて、来年は・・・



デイサービスセンター河渡本町

三添 真由子

電話 025-250-3001 FAX 025-250-3010

# 伊東先生のコラム第35回



## 「ある日本兵の話」

丸山診療所所長 伊東浩志

第二次世界大戦の時、一人の男が重慶に出征しました。戦乱はやや敗戦色が濃くなっていました。彼の隊は間もなくロシア軍により半数を失い、残りの半数は捕虜となりました。イルクーツクという極寒の捕虜収容所に収容され強制労働に従事しました。

冬場は凍土となり地面を掘ることすらできませんでした。森林の伐採と材木の製材、後は尿尿処理の仕事もしていました。暖をとることは禁止され、渡された薄いコートと毛布で極寒を過ごしました。あまりの寒さに一人で寝ることができずに仲間と抱き合い暖をとる日々。朝起きると仲間は自分の横で凍死していることも一度や二度ではありませんでした。

彼は3年に及ぶ強制労働の末、やや南方の収容所に移転されることになりました。

しかし、移転当日、入れ替わりに若い日本兵が数十名イルクーツクの強制収容所に収監されました。彼は、既に3年の長きによりロシア語を覚え、寒さの中での生存方法を習得していました。入れ替わりの若い日本兵がこれから体験するであろう極寒の修羅を見過ごすことができずに、収容所の長に申し出てイルクーツクの収容所に残ることを志願しました。

以後、4年の長きにわたりイルクーツクで強制労働をしました。実に7年間。異国の丘で過ごすこととなりました。彼が日本に開放されたときは既に心身が痛み、言葉を失い、目の色を失っていました。1年間椅子に座ったまま中空を見つめる毎日を送っていました。次第に日本の現実に溶け込み、一人の日本人に戻ることでとなりました。彼は結婚し、呉服屋さんを始めました。3人の子供に恵まれました。

彼の店にはロシア人が来ることも多く、ロシア語でぺらぺら話していました。何も知らない彼の子供は彼が外国語をしゃべることに畏敬の念を感じていました。彼は死ぬまで強制労働のことを子供たちに話すことはありませんでした。

彼は私の父です。

## 施設見学を終えて (JAバンク新潟県信連)

5月27日、JAバンク新潟県信連の融資部次長 高橋様、福井様を当社3施設へご案内致しました。その時の感想を福井様より頂きました。

皆様はじめまして。JAバンク新潟県信連の福井恭子と申します。

5月27日にグループホーム新津、デイサービスセンター・ショートステイ水原、デイサービスセンター坂井東の3施設の見学をさせていただきました。

施設の雰囲気や職員の方々に実際に触れることで、『“人”を一番大切にします』という、はあとふるあたごさんの基本理念を実感することができました。

グループホームでは印象的なエピソードを聞かせていただきました。入居者のおひとりが自室をご案内して下さったのですが、この方の部屋には昔懐かしい黒電話が置いてありました。入居当初、しきりに「電話を取りに行く」と言われたため、電話会社から不要になった黒電話を譲り受けて部屋に置いたところ、混乱が落ち着かれたとのこと。皆さん何かしらのきっかけが存在するのですね。画一的なケアではなく、おひとりおひとりの意思を尊重した対応をされていることに感動しました。

はあとふるあたごさんでは「音楽療法」、「リフレ・アロマ」、「選択食」をはじめとする様々なオプションサービスを積極的に取り入れており、「五感を刺激する」工夫が随所にちりばめられていると感じました。「お客様重視の目線」が組織全体、職員の方ひとりひとりに行き渡っていることを感じるとともに、その「目線」が様々なサービスを血の通ったものに行き渡っているのだと知り、明るく笑顔でお客様と接しておられる職員の皆様に尊敬の念を抱きました。

今後いろいろな形で地域社会との交流がいつそう進むことを期待します。特に子供たちとの交流が増えれば、核家族化が進む今、子供たちにとってもかけがえのない経験になるのではないかと思います。

最後になりましたが、今回は貴重な経験をさせていただき大変勉強になりました。お忙しい中、ご対応下さいました木村社長をはじめ職員の皆様、本当にありがとうございました。



(左)福井 (右)融資部次長 高橋  
当日は2名でおじゃましました。ありがとうございました。

## 居宅介護支援センター水原 オープン!!



ケアマネジャーの木根澗

6月1日付けで、水原に居宅介護支援事業所を開設しました。居宅介護支援センターは、ショートステイ水原・デイサービスセンター水原の中にあります。近くには、瓢湖があり、冬には白鳥が見られ、夏には、花火が上がるとのことです、今から楽しみにしています。

グループホーム新津から異動となり、ケアマネジャーとしては、新米の私ですが、在宅で安心して生活できるケアプランをお客さまに提供できるように頑張りたいと思います。今後と

もどうぞよろしくお願ひいたします。

居宅介護支援センター水原 木根澗幸子

~ご意見・ご感想をお寄せ下さい。~

<連絡先> はあとふるあたご総務部 新潟市中央区新島町通三ノ町 2284 番地 電話 025-228-5000 FAX025-228-4000

<編集委員> 南洋子、中山卓、荒木幸子、富樫亜希子、岡田健、古野間信介